

日本語版  
2017年 第117巻  
6月・7月

# 北見工業大学 国際交流センター ニュースレター



## 目次

- 留学生「野草観察会」
- 中国石油大学より短期研修生来学
- 大学祭での国際交流イベント
- 北見工業大学バスのラストラン
- インターナショナル“Cアワー”
- 短期留学生の修了式
- 「竹とんぼを作ろう！」
- 今後の予定
- ぼんちまつり舞踊パレードへの参加



毎年恒例の「野草観察会」が山岸喬名誉教授を講師として行われた。好天に恵まれ、中国、韓国、モンゴル、マレーシア、バングラディッシュからの留学生19人が参加した。最初は網走へ向かい、「網走市立郷土博物館」において、オホーツク地方の風土・歴史について学んだ。



その後、網走原生牧場へ移動し、オホーツク海を眺めながら、様々な動物と触れ合い、昼食を楽しんだ。中国人留学生チェン・シンユーさんは「ラマがとても可愛くて、一緒に写真を撮れて楽しかった。昼食も美味しかったし、空気も美味しかった！」と満足した表情だった。

昼食後は「小清水原生花園」に向かい、海岸を歩きながら、花や野草の観察を行った。韓国人留学生ジョン・ヨンホさんは、「オホーツク海がとてもきれいなので、足を入れてみると水が冷た過ぎました！」とびっくりした様子。モンゴル人留学生ドルジバルダン・サランビレグさんは、「本国では海を見ることがあまりなく、オホーツク海を初めて見て、とてもきれいだと思った！」と感激していた。

青い空と美しい景色に留学生の笑顔が溢れる素晴らしい観察会となった。開催にあたり、ご寄付を賜りました国際ソロプチミスト北見様に深く感謝します。



## 大学祭での国際交流イベント

6月24日(土)

### 「生け花教室」

大学祭1日目に開催された「生け花教室」には韓国、アルジェリア、モンゴル、中国、バングラディッシュからの留学生12名が参加した。華道教室を主宰している西野先生に講義をいただき、四苦八苦しながら、各自が美しい作品を仕上げた。



参加者の投票により、最優秀賞にはモンゴルからの留学生ガンソリグ・オユンダリさんの作品が選ばれた。留学生の華道作品は、学長室、図書館、茶道会場などに飾られ、大学祭を華やかに盛り上げた。準優勝のジョン・ヨンホさんは「韓国では、お花を生けたことがなかったけれど、挑戦してみて楽しかった。日本への理解も深まった。」と大満足の様子で写真をたくさん撮っていた。



### 「国際交流お茶会」

午後からは北見藤女子高校茶道部の協力を得て、国際交流お茶会を行った。日本人学生や一般の方々も楽しめるように毎年実施しているお茶会は、留学生をはじめ大勢の方々でいっぱいだった。今年も素敵なお茶会を開いてくれた北見藤女子高校茶道部の皆様に感謝します。





大学祭2日目、留学生を対象とした着物体験が開催された。中国人留学生リョウ・ミヤオさんは「歩くのが大変でしたが、とてもきれいで写真をたくさん撮りました！」と感激していました。チェン・シンユーさんは「とにかく苦しかった。着物は美しい反面、着ることが大変で、来ている間も苦しいことがわかった。」と驚きの様子だった。男性着物を着たジョン・ヨンホさんは、「日本に来て着物を着ることと兜をかぶることが夢だったので嬉しい！」と喜んでいた。



## 大学祭：留学生の模擬店(モンゴル、韓国、中国)

今年の模擬店には韓国、台湾、中国、モンゴルの留学生が自国の料理を作って出店した。

### ◆韓国：トッポギ、韓国おでん、韓国激辛ラーメン

2年ぶりの出店となる韓国料理の店は初日から大盛況で、予想をはるかに超える売れ行きとなった。ユン・ジュニョクさんは「韓国の料理を紹介できて良かった。材料を韓国から取り寄せる準備が色々忙しかったけれど、皆様に喜んでもらえたと、売り上げで打ち上げをすることが楽しみです！」と満足した表情で話していた。



### ◆台湾：タピオカミルクティー

留学生の手作りタピオカを用いたミルクティーを販売した。リョウ・ジャーシンさんは、「小さなタピオカをひとつひとつ手作りするが大変だったけれど、たくさんの人に喜んでもらって嬉しかった。2日目は気温が低かったので、思ったより売れなくて残念だった。でも皆で作業をして楽しかったし、良い思い出になった。」と話していた。



### ◆中国：焼き餃子、水餃子

お客さんと交流するために、店内には食べるスペースが設置された。リー・シチョウさんは、「飛ぶように売れた！ 予定していた2日分が初日で売り切れたので、徹夜をして追加の餃子を作った。皮も手作りなので手間がかかったが、中国人の餃子への情熱を伝えたかった。来年もぜひ出店したい！」と語っていた。



### ◆モンゴル：ホーショール(揚げ餃子)、グレメル(細長ドーナツ)、シュルログ(串焼き)

昨年に続き、伝統料理を提供し、今年も行列ができるほどの人気だった。サランビレグさんは「何日も前から準備をしたので本当に大変で疲れたけれど、留学中の大きな思い出になった！」と話していた。売り上げはモンゴルの教育財団に寄付をするとのこと。





## インターナショナル「Cアワー」 「竹とんぼ」

6月27日(火)



「どこでも竹とんぼ教室オホーツク竹とんぼの会」から講師を招いた。「竹とんぼ」で遊んだことはあっても、作った経験のある参加者はおらず、竹をナイフで削り、ロウソクであぶり、羽の角度を付け、奮闘しながら取り組んでいた。完成した竹とんぼは、上方向に高く飛ぶもの、低空飛行ながら遠くまで飛ぶもの等、微妙な違いによって飛び方も様々だった。

韓国人留学生キム・サンホンさんは、「久しぶりに子どもに戻ったようで、とても楽しい。」と始終笑顔だった。マテリアル工学科3年の飯島さんは「簡単そうに見えてなかなか難しかった。留学生と交流もできて楽しく貴重な体験でした！」と話していた。日本の伝統をご紹介くださった講師の皆様に感謝します。

## ぼんちまつり「舞踊パレード」への参加

7月14日(金)



第64回を迎える北見ぼんちまつりの初日を飾る「舞踊パレード」へ、今年も多くの留学生が参加した。この日を楽しみにしていたチェンさんは、「浴衣を着て、草履を履いて、ウチワを持って踊る、というアニメで見た日本のお祭を実際に体験できて、とても楽しかった！」と話していた。



## 中国石油大学より短期交流研修団の来学

7月24日(月)～27日(木)

共同研究を行なっている中国石油大学(チンタオ市)から12名の学生と2名の教員が来学し、ワークショップや文化研修を行った。今後につながる有意義な交流となった。



## 北見工業大学バス ラストラン

7月28日(金)

27年間に渡り様々な場所へ連れて行ってくれた大学バスがラストランを迎えた。思い出の詰まったバスとのお別れは寂しい。最終日は留学生を紋別へ連れて行ってくれた。お世話になった小野運転手も8月で退職を迎える。寂しさと感謝の気持ちで一杯である。



## 特別聴講生の修了式

7月31日(月)

協定校からの短期留学生修了式を行なった。今学期で修了するのは3国10名の留学生。半年～1年の留学期間を終えて協定校へ戻る。中国医薬大学から来ていたリン・シューホエさんは「留学したことを後悔していますか？と聞かれたら、全然後悔していないとすぐに答えられます！」と流暢になった日本語で熱く語った。最後は恒例の修了生フォトムービーが上映され、感動的な修了式となった。帰国後の活躍を祈っている。



### 今後の予定

- ◆インターナショナルCアワー「流しそうめん」  
8月2日(水) 於:国際交流ラウンジ中庭
- ◆ドイツ語学研修:アシャッフエンブルク応用科学大学  
8月11日～9月2日

発行所: 北見工業大学国際交流センター  
住所: 北見市公園町165番地  
電話: (0157) 26-9370  
FAX : (0157) 26-9373  
E-mail : kenkyu05@desk.kitami-it.ac.jp



北見工業大学